

令和 6 年度 文化財防災訓練等実施状況報告

市町名
野洲市

行 事 名 称	令和 7 年文化財火災防ぎょ訓練
実施期間・日時	令和 7 年 1 月 25 日（土）午前 8 時 00 分から午前 9 時 00 分
実 施 場 所	野洲市小篠原 768 番地 1 稲荷神社及び周辺地域
主 催 者	野洲市・野洲市教育委員会

■実施内容

訓練の想定

稲荷神社東側の保安林から火災が発生し、強風化における本殿および拝殿への延焼拡大危険が高まる状況である。楼門から本殿に通ずる参道には、多数の人が参拝に訪れ混乱状態となり、数名のものが負傷している。宮司による 119 番通報及び地元自治会による避難誘導、初期消火は行われるも、災害規模に対する劣勢状況が継続していると想定。

訓練の内容

稲荷神社東側の保安林から火災が発生し、強風により拝殿・楼門への延焼の危険が高まる。
宮司による 119 番通報。自主防災組織（小篠原自治連合会）は参拝者の避難誘導、初期消火活動（消火器・放水銃による放水）にあたる。さらに野洲市消防団・東消防署が自主防災組織と連携して実践に即した火災防ぎょ、人命救助を展開する。

参加者及び役割分担

稲荷神社（9 名）：参拝者の避難を誘導し、文化財（重要物）を古宮神社本殿から安全な場所まで搬出。
小篠原自治連合会（13 名）：消火器（水）による初期消火活動、負傷者の搬送および応急手当。小型動力ポンプからの放水・消火活動。
消防団（16 名）：現場指揮本部の設置。ウォーターカーテンを使用しての文化財延焼阻止。消火活動。被害状況の把握・情報共有。
教育委員会・文化財保護課（3 名）：文化財の被害状況を集約。本部長へ文化財の被害状況を報告。
東消防署（10 名）：情報収集。消防団要請。

特に工夫した点

消防も担当者が代わっており、事前に消防や自治連合会役員と密に連絡を取った。

問題点・課題

地区住民の高齢化及び新規居住者の増加による訓練参加者の減少が課題。また、神社及び自治連合会役員の大半は平日の日中に仕事を持っていることから、有事の対応や役割分担をはじめ、連絡体制等についても整備と共有化を図る必要がある。

その他

毎年文化財防火デーにあわせて消防訓練を行うことは、地元消防団や地区住民の文化財愛護の高揚を図り、防災の必要性を確認する機会となっており、今後も継続して実施することが重要。

訓練風景



準備作業



参拝者の避難誘導



文化財（重要物）の搬出



初期消火活動



負傷者の搬送



地元自治会の消火活動



現場指揮本部の設置



市消防団による消火活動準備



市消防団による消火活動



市消防団による消火活動



文化財被害報告



訓練参加者